

十月三十日に自宅を、三十一日に會社を引越せり。數週間後に何と恐ろしき事したるかと思ふ後悔すれど、遅かりし。二十年近く住みたる白金臺の家は、モノ入れ多くあり、餘分なるもの多く蓄積せり。引越し先の奥澤は同じ廣さなれども、モノ入れ少なければ、段ボールの山片附かぬまま二週間の生活、そのストレスたるや尋常ならざりし。九十一歳になる母は、昔の人ゆゑモノ捨てられず。現在ミャンマーの經濟開發支援のためカナダよりヤンゴンへ移り住みたる義弟が母の高齡を憂ひ、妻(すなはち我妹)を送り來れり。妹は何度もの引越しに、手慣れたる手つきにて果斷にモノを捨つるなり。母困惑し、妹の捨てたるものをそつと拾ふ。堂々巡りの事態に妹怒り、母以外の荷物を擔當する吾は如何ともする能はず、ひたすら手を拱きて眺むるばかりにて氣運鬱々たり。母の服の半分以上、妹は捨てつ。見かねたる吾は妹ミャンマーに歸國後、白金臺へ赴き和服のみ拾ひ集め母に渡しき。いづれ處分せざるを得ざらんといへども、取り敢へず高價なる和服を戻され安堵の母ぞ愛しき。人間は何故かくもモノを溜むるや。服を多く持つと、ことごとく身に着くるを得んとは思ひもよらず、食器も同じく全て食事に使ふべしや、吾は溢るるモノの整理する能はざるに立腹し、かくの如くモノを蓄積しつるを大いに反省す。最近の流行り言葉に斷捨離あり。ウイキペディアによれば基本的にはヨガの行法、「斷行(だんぎやう)」、「捨行(しやぎやう)」、「離行(りぎやう)」の考へ方を應用し、人生や日常生活に不要なるモノを斷つ、または捨つることにより、モノへの執著より己を解放し、身輕にして快適なる人生を手に入れむといふ、生き方、處世術にてありとなむ。丁度良き機會なれば、これより齡を重ねて行く上にて、モノをなるべく少なくして行かんと思ひたりき。